

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2271100923		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム沼津我入道 1階ユニット		
所在地	静岡県沼津市我入道江川5-1		
自己評価作成日	令和6年9月28日	評価結果市町村受理日	令和7年1月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokekka.nsf/aOpen?OpenAgent&JN0=2271100923&SVC=0001096&B.JN=00
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室
所在地	静岡県静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	令和6年10月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム自体は開設から20年が経過したものの、清掃や設備補修を繰り返し、なるべく経年劣化を感じないよう、オーナー様と協力のもと、運営に務めている。5年以上の愛の家での経験スタッフも数多く在籍し、経験豊富なスタッフが認知症の専門的な知識の元、安心していただける環境づくりに務めています。

全職員が救命救急講座を受けており、万一の時には対応が出来るようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所には17年間に在籍の管理者と5年～10年勤務の経験豊富な職員が多く働いていて、家族アンケートにも「職員が情報を共有しているので、誰に聞いても答えが返ってくる。不明なことはわかる人につないでくれる。職員の教育がきちんとできているのだなあと感心する」との具体的な評価とともに、「明るい」「感謝」「満足」「助かる」といった単語が躍っていて、家族の信頼の高さが伝わります。また利用者がゆったりと過ごさせていることは、その穏やかな表情や笑顔で感じ取ることができます。全国に328棟のグループホームを擁する法人だけに、年間計画に基づいた取組やマニュアルの整備にも長けていて、総じて安心感に満ちています

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は、毎年作成し、朝礼やユニット会議において理念を確認し、実践に繋がるようにしている。	各階の事務所に理念を掲示するとともに朝礼で唱和しています。全職員が「理念ブック」を持ち、研修などを通じて読み返すほか、ユニット会議で目標を決めて会議毎に達成度合いを確認してもいて、周知への取組が徹底されています	多くの実習生を受け入れています、法人または当事業所への就職につながっていません。どのような姿を見せたら、言葉がけをしたらよいか、一度職員間で話し合うことを期待します
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩を通して、地域の方々とお会いした際には、挨拶や会話をしている。ご入居者様の希望が聞かれた際、スーパーやコンビニにスタッフと一緒に買って買い物をしている。	自治会に加盟していて、防災訓練や文化祭といった地域行事にも参加できており、近隣のスーパーマーケットへの買い物も日常に溶け込んでいます。また各種専門学校や福祉系大学の実習生を受入れ、専門職の育成という社会的責務を果たしています	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルスの感染拡大してから、運営推進会議にて直接地域の方々と接する機会は減ってしまっていたが、近所の方が認知症の悩みや介護の方法について聞きに来ることがあった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルスの感染拡大してから、運営推進会議の対面での開催が出来ていないが、徐々に緩和させ、対面での開催をしている。その際に、取組や状況を報告している。	5類移行となってもコロナ禍の影響はみられ、昨年度まで書面開催でした。本年度から対面となり、家族2名が参加くださっています。利用者が席に就いてくださることもあります、参会と言っても現状は職員を含み4～5名の集まりです	「民生委員、自治会長に声をかけていますが、平日ということもあって参加に至っていません」とのことですので、両名の希望を確認するなど、開催方法の見直しがあることを期待します
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者と日頃から連絡をするようにしている。担当者への質問を積極的に行い、協力関係を築くようにしている。	昨年度は香貫地域包括センター支所主催でオレンジカフェが当事業所の駐車場で催されています。ドリンクやピザ、お菓子もふるまわれ、賑やかな一日となり、利用者も飲んでいました。本年度は市社会福祉協議会の地域ふれあい祭りにも参加しています	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議において、資料や動画を使用し、身体拘束についての研修を定期的実施している。研修に加え、チェック表を用いて日々の行動をチェックしている。	各ユニットの選抜職員がチェック表に取組んだうえで「身体拘束・虐待防止委員会」を開催（四半期毎）、議事録は供覧とともに捺印を義務付け、共有を図っています。また利用者には15分ごとに声掛けしてさりげなく所在確認をおこない、職員の責任感を高めています	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議において、資料や動画を使用し、虐待の防止についての研修を定期的実施している。研修に加え、チェック表を用いて日々の行動をチェックしている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間の研修スケジュールに準じて、スタッフの全体会議において、権利擁護について学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際には、被契約者の不安や疑問を聞く時間を十分に取っており、理解や納得を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様アンケートを実施し、ご家族様の意見を伺うようにしている。意見においては、社内にて共有し、サービスが向上するようにしている。	毎月家族には「はまかぜ通信」を届けています。写真を含み1か月の状況を報告していて、写真は家族の要望により増やしています。アンケートにも「本人の様子をいつも報せてくださる、面会に行こうと思うがなかなか行けないので助かる」との意見が挙がっています	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員アンケートを実施し、意見や提案を聞いている。本社にて分析し、各ホームの課題を抽出し、改善に努めている。	意見が言えない職員には特に配慮し、面談の時間を設けているほか、職員には3か月に1回のミニアンケートを通じて状況の把握に努めています。更に毎月開催の東部地域のエリアホーム長会議においてアンケート結果は協議され、解決策を導き出しています	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度において、各スタッフ共通の評価ツールを使用し、評価をしている。定期的に面談も実施し、スタッフ各々の働きやすい環境を伺い、整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々のケアの力量をキャリアパス内のケアの技術評価表を用いて力量を把握、今後の課題において、管理者やユニットリーダーと共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に地域の同業者の事業所を訪問し、ホームでの取り組みやご利用者様の様子を伝えている。包括支援センター主催のイベントにも参加させてもらっている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者様が話しやすい環境づくりに努め、信頼関係が築けるように、時間をかけ、コミュニケーションを取っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居まで話をする機会を設け、不安や困っていることを聞き出すようにして、関わりを増やし、信頼関係を築けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にご本人様とご家族様にサービスに希望するニーズを聞き出し、ケアプランを作成している。ケアプラン作成時には、他のサービスの利用においても、柔軟に対応できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の暮らしの中において、出来る事を見出し、ホームの中においても、継続的に役割を持っていただけるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホーム側と信頼関係が築けるように、ご家族様の意見も大切に、入居してからの関係も崩れないようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に関りのあった人や環境を入居してから継続できるように、家族や知人の面会を受け入れ、馴染みの場所にも行けるように支援している。	感染予防への注意や配慮は継続させていますが外出の制限はなく、毎月2回程伴侶の墓参に出かける利用者もいます。面会も毎週の来訪や、週2回という家族もいて、利用者には新聞を読んだり、裏にある花壇の手入れや生活リハビリに励む日々があります	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士が生活の中において、孤立をしないように、関わり合いを持っている。職員は関係性全体を見て、必要なケアをするように努めている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了してからも、ホームを訪ねて来ていただいている方だいたり、必要に応じて相談や支援をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族様から入居前の情報を伺ったり、ご本人様との日々の関りの中から希望や意向を聞き出している。	法人が敷いた専用ソフトがあり、アセスメントとフェイスシートの入力をおこなっています。3か月に1回の再アセスメントに取組み、介護計画書に反映させています。家族には面会や電話で意向を確認してはいますが、サービス担当者会議へ出席くださる家族もいます	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様にも協力を頂き、これまでどのようにして生活を送ってきたか、家庭環境や生活習慣を伺っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を関りの中から情報として共有し、ノータイスに入力してスタッフ間で朝礼や会議で情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	主治医の回診や受診、月に1回のPTの訪問を受け、他職種とも連携をしながら、ご利用者一人一人が望む生活が送ることが出来るように、ケアプランにも反映するようにしている。	ケアサービスの内容については3か月に1回モニタリングをおこなうことを励行し、緊急の場合はその都度見直しを図っています。介護計画書の家族署名は面会の機会を活用し、面会がない場合は郵送するとともに、利用者本人の署名がある介護計画書もあります	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	アイフォンを使用し、記録の入力を行っている。 日々の様子をスタッフ間で共有し、介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様とご家族様のホームでの生活への希望を確認し、柔軟な支援をするようにしている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームでは地域資源の発掘に努めている。ボランティアの受け入れも行っており、今後は車いすダンスの慰問も受ける予定です。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様やご家族様の希望を伺い、ホームの主治医に限らず、希望の医療を受けられるようにしている。	在宅の頃からのかかりつけ医には家族対応で3名が定期受診を継続させていて、他は協力医の訪問診療が月1回あります。また、かかりつけ医を続けている人も協力医がインフルエンザ接種に対応してくださっています。訪問歯科、訪問看護の定期来訪もあります	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションより週1回の訪問を受け、日々の状態の把握に努め、情報を共有して日々のケアに努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院をした際には、介護サマリーを作成し、情報の共有をしている。スムーズに入院生活が送れるように、担当者とも密に連絡をするようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際にも重度化や終末期のことを伺うようにしているが、体調に変化があった際にも意向を伺うようにしている。事業所で出来ることを主治医や他職種にも確認している。	重度化及び終末期に係る指針はないものの、契約時には口頭で説明しており、意向の確認はおこなっています。15年間在所していた利用者を今2月に見送っていて、家族にも居室で時間の許す限り滞在してもらえよう図り、感謝の言葉が得られています	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対策マニュアルを作成し、職員には定期的に研修を開催している。すべての介護職員は救命講習を受講した。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施している。1回は夜間想定にて実施している。地域の方の参加がなく、課題であると認識している。	地震からの火災想定で年2回の法定訓練を実施していて、消化器の位置や避難経路は職員に周知されています。BCP研修は新人は1か月以内、職員は年2回受講を義務付け、本年9月には20名が救急救命講座を受けています	(3階まであるので垂直避難ということは決まっているとしても)今年の集中豪雨では目前の道路が氾濫、車は通れない状態になったことがあるとのことですので、風水害に向けた机上訓練の実施を期待します

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮し、人格も尊重した声掛けや対応をするように努めている。	個人情報や写真などの使用同意書を備え、家族の意向確認と合意形成が図られています。また接遇研修は必ず年1回おこない、個別のアプローチは1対1で指導するようにしています。「介護記録は5年間保存」といった取決めもあり、書類を適切に管理しています	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関りから、ご利用者様の思いや希望を聞き出すようにして、叶えられるように、職員間で話し合いをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様一人一人の生活のペースを尊重し、どのようにホームで生活を送りたいか伺っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しくなるような会話や音楽を流すなど、雰囲気作りをしている。	管理栄養士が作成した献立が本社から届き、事業所で手作り調理しています。月に1度、調理レクリエーションの日を設け、焼きそばなどのプレートものや、のり巻きが人気ですが、「先月は稲荷寿司」「今月はちらし寿司」で、寿司はやはり定番です	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作成した食事メニューを厨房のスタッフが作った物を提供している。食事量が少ない方は、ご家族様にも協力をして頂き、補食を用意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を理解し、毎食後に口腔ケアをしている。毎週金曜日には訪問歯科を受け、全員ではないものの、必要に応じて診察している。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各ご利用者様の排泄つパターンを各職員間で共有し、可能な限りトイレでの排泄つが出来るように、職員で2人介助も行っている。	排泄状況はアイフォンに入力しています。5名がベッド上の交換、車いす利用は7名と重度化へ進んでいる人もいれば、半分以上は尿意があつてトイレでできていて、27名もいと様々です。便コントロールは運動と水分摂取で整えて薬に頼らないようにしています	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量をアイフォンに入力し、各職員がタイムリーに情報を見られるようにしている。薬に頼らないように、運動やリハビリも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	安心して入浴ができるように、浴室内の環境整備をしている。浴槽に入れない方は、シャワーチェアを使用して入浴できるようにしている。	身体や皮膚の状態を記録するアイホンフロアに2台の設置があり、週2～3回を目安に必ず2回の入浴介助を実施しています。浴槽の湯は個毎に入れ替え清潔を保ち、ゆずや菖蒲湯の季節風呂や足浴といった楽しみの機会も設けています	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人に合わせた生活習慣を把握し、眠れない時には、夜勤職員が付き添い、安心した生活が送れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルに沿って服薬事故が起きないように、職員間で声を掛け合いながら服薬介助をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが出来ることを見つけて、継続して行えるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご希望に沿って、コンビニやスーパー、近隣の飲食店に出かけている。ご家族様との外出も定期的実施している。	少し足を延ばした外出を年間計画に位置付けてはいませんが都度検討はしていて、春の花見、秋の紅葉は恒例となっています。散歩は室外のシルバーカーや車いすの使用となっても毎日支援しており、外のベンチでは外気浴に親しむ姿もあります	

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には貴重品の持ち込みはトラブル防止の観点からお断りをさせていただいている。しかし、ご本人様、ご家族様の希望が聞かれる際にはリスクも理解していただきながら現金を持っている方もいらっしゃる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望に合わせて、電話の支援をしたり、携帯電話を居室内で保管し、電話をされている方もいらっしゃる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	冬季は加湿器を各居室に配置し、温度計や湿度計を確認をして快適な空間での生活が送れるようにしている。	パットの処理は新聞紙使用、排泄処分は蓋つきのものを使用、換気は大型空気清浄機を導入して、嫌なにおいはまったくありません。玄関には生花が飾られ、庭の花を部屋に置く人もおり、季節の風情が暮らしの中に溶け込む様子を視認しました	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お独りの時間も作れるように、廊下にソファを設置して、空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に家で使用していた家具や使い慣れた親しみのある物を持って来ていただけるように、依頼をしている。	全居室に加湿器を配置、清掃は職員が毎日入り、できる利用者には生活リハビリも兼ねて日課となるよう支援しています。筆筒、鏡台、作業台(テーブル)、テレビ、家族写真のほか、手づくりの編み物を額に入れて壁に飾る居室もあり、それぞれ趣があります	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	スタッフが見守りを行う際には、背を向けないようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2271100923		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム沼津我入道 2階ユニット		
所在地	静岡県沼津市我入道江川5-1		
自己評価作成日	令和6年9月28日	評価結果市町村受理日	令和7年1月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokekka.nsf/aOpen?OpenAgent&JN0=2271100923&SVC=0001096&B.JN=00
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室
所在地	静岡県静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	令和6年10月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム自体は開設から20年が経過したものの、清掃や設備補修を繰り返し、なるべく経年劣化を感じないよう、オーナー様と協力のもと、運営に努めている。5年以上の愛の家での経験スタッフも数多く在籍し、経験豊富なスタッフが認知症の専門的な知識の元、安心していただける環境づくりに努めています。

全職員が救命救急講座を受けており、万一の時には対応が出来るようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所には17年間に在籍の管理者と5年～10年勤務の経験豊富な職員が多く働いていて、家族アンケートにも「職員が情報を共有しているので、誰に聞いても答えが返ってくる。不明なことはわかる人につないでくれる。職員の教育がきちんとできているのだなあと感心する」との具体的な評価とともに、「明るい」「感謝」「満足」「助かる」といった単語が躍っていて、家族の信頼の高さが伝わります。また利用者がゆったりと過ごさせていることは、その穏やかな表情や笑顔で感じ取ることができます。全国に328棟のグループホームを擁する法人だけに、年間計画に基づいた取組やマニュアルの整備にも長けていて、総じて安心感に満ちています

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は、毎年作成し、朝礼やユニット会議において理念を確認し、実践に繋がるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩を通して、地域の方々とお会いした際には、挨拶や会話をしている。ご入居者様の希望が聞かれた際、スーパーやコンビニにスタッフと一緒に買って買い物をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルスの感染拡大してから、運営推進会議にて直接地域の方々と接する機会は減ってしまっていたが、近所の方が認知症の悩みや介護の方法について聞きに来ることがあった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルスの感染拡大してから、運営推進会議の対面での開催が出来ていないが、徐々に緩和させ、対面での開催をしている。その際に、取組や状況を報告している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者と日頃から連絡をするようにしている。担当者への質問を積極的に行い、協力関係を築くようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議において、資料や動画を使用し、身体拘束についての研修を定期的実施している。研修に加え、チェック表を用いて日々の行動をチェックしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議において、資料や動画を使用し、虐待の防止についての研修を定期的実施している。研修に加え、チェック表を用いて日々の行動をチェックしている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間の研修スケジュールに準じて、スタッフの全体会議において、権利擁護について学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際には、被契約者の不安や疑問を聞く時間を十分に取っており、理解や納得を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様アンケートを実施し、ご家族様の意見を伺うようにしている。意見においては、社内にて共有し、サービスが向上するようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員アンケートを実施し、意見や提案を聞いている。本社にて分析し、各ホームの課題を抽出し、改善に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度において、各スタッフ共通の評価ツールを使用し、評価をしている。定期的に面談も実施し、スタッフ各々の働きやすい環境を伺い、整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々のケアの力量をキャリアパス内のケアの技術評価表を用いて力量を把握、今後の課題において、管理者やユニットリーダーと共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に地域の同業者の事業所を訪問し、ホームでの取り組みやご利用者様の様子を伝えている。包括支援センター主催のイベントにも参加させてもらっている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者様が話しやすい環境づくりに努め、信頼関係が築けるように、時間をかけ、コミュニケーションを取っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居まで話をする機会を設け、不安や困っていることを聞き出すようにして、関りを増やし、信頼関係を築けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にご本人様とご家族様にサービスに希望するニーズを聞き出し、ケアプランを作成している。ケアプラン作成時には、他のサービスの利用においても、柔軟に対応できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居前の役割を継続できるように、居室の清掃や生花を生けたりと、出来ることを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホーム側と信頼関係が築けるように、ご家族様の意見も大切に、入居してからの関係も崩れないようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に関りのあった人や環境を入居してから継続できるように、家族や知人の面会を受け入れ、馴染みの場所にも行けるように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士が生活の中において、孤立をしないように、関わり合いを持っている。職員は関係性全体を見て、必要なケアをするように努めている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了してからも、ホームを訪ねて来ていただいている方だいたり、必要に応じて相談や支援をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族様から入居前の情報を伺ったり、ご本人様との日々の関りの中から希望や意向を聞き出している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様にも協力を頂き、これまでどのようにして生活を送ってきたか、家庭環境や生活習慣を伺っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を関りの中から情報として共有し、ノータイスに入力してスタッフ間で朝礼や会議で情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	主治医の回診や受診、月に1回のPTの訪問を受け、他職種とも連携をしながら、ご利用者一人一人が望む生活が送ることが出来るように、ケアプランにも反映するようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	アイフォンを使用し、記録の入力を行っている。 日々の様子をスタッフ間で共有し、介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様とご家族様のホームでの生活への希望を確認し、柔軟な支援をするようにしている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームでは地域資源の発掘に努めている。ボランティアの受け入れも行っており、今後は車いすダンスの慰問も受ける予定です。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様やご家族様の希望を伺い、ホームの主治医に限らず、希望の医療を受けられるようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションより週1回の訪問を受け、日々の状態の把握に努め、情報を共有して日々のケアに努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院をした際には、介護サマリーを作成し、情報の共有をしている。スムーズに入院生活が送れるように、担当者とも密に連絡をするようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際にも重度化や終末期のことを伺うようにしているが、体調に変化があった際にも意向を伺うようにしている。事業所で出来ることを主治医や他職種にも確認している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対策マニュアルを作成し、職員には定期的に研修を開催している。すべての介護職員は救命講習を受講した。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施している。1回は夜間想定にて実施している。地域の方の参加がなく、課題であると認識している。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮し、人格も尊重した声掛けや対応をするように努めている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関りから、ご利用者様の思いや希望を聞き出すようにして、叶えられるように、職員間で話し合いをしている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様一人一人の生活のペースを尊重し、どのようにホームで生活を送りたいか伺っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るように支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しくなるような会話や音楽を流すなど、雰囲気作りをしている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作成した食事メニューを厨房のスタッフが作った物を提供している。食事量が少ない方は、ご家族様にも協力をして頂き、補食を用意している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を理解し、毎食後に口腔ケアをしている。毎週金曜日には訪問歯科を受け、全員ではないものの、必要に応じて診察している。			

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	パットを使用されているご利用者様もいるものの、なるべくトイレでの排泄を目指している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤に頼りすぎないように、水分や食事、運動も取り入れている。自立支援介護を継続しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	安心して入浴ができるように、浴室内の環境整備をしている。浴槽に入れない方は、シャワーチェアを使用して入浴できるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人に合わせた生活習慣を把握し、眠れない時には、夜勤職員が付き添い、安心した生活が送れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルに沿って服薬事故が起きないように、職員間で声を掛け合いながら服薬介助をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが出来ることを見つけて、継続して行えるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご希望に沿って、コンビニやスーパー、近隣の飲食店に出かけている。ご家族様との外出も定期的の実施している。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には貴重品の持ち込みはトラブル防止の観点からお断りをさせていただいている。しかし、ご本人様、ご家族様の希望が聞かれる際にはリスクも理解していただきながら現金を持っている方もいらっしゃる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望に合わせて電話や手紙を使用し、外部の方と連絡している方もいらっしゃる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	冬季は加湿器を各居室に配置し、温度計や湿度計を確認をして快適な空間での生活が送れるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お独りの時間も作れるように、廊下にソファを設置して、空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に家で使用していた家具や使い慣れた親しみのある物を持って来ていただけるように、依頼をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	スタッフが見守りを行う際には、背を向けないようにしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2271100923		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム沼津我入道 3階ユニット		
所在地	静岡県沼津市我入道江川5-1		
自己評価作成日	令和6年9月28日	評価結果市町村受理日	令和7年1月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokekka.nsf/aOpen?OpenAgent&JN0=2271100923&SVC=0001096&B.JN=00
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室
所在地	静岡県静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	令和6年10月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム自体は開設から20年が経過したものの、清掃や設備補修を繰り返し、なるべく経年劣化を感じないよう、オーナー様と協力のもと、運営に努めている。5年以上の愛の家での経験スタッフも数多く在籍し、経験豊富なスタッフが認知症の専門的な知識の元、安心していただける環境づくりに努めています。

全職員が救命救急講座を受けており、万一の時には対応が出来るようにしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所には17年間に在籍の管理者と5年～10年勤務の経験豊富な職員が多く働いていて、家族アンケートにも「職員が情報を共有しているので、誰に聞いても答えが返ってくる。不明なことはわかる人につないでくれる。職員の教育がきちんとできているのだなあと感心する」との具体的な評価とともに、「明るい」「感謝」「満足」「助かる」といった単語が躍っていて、家族の信頼の高さが伝わります。また利用者がゆったりと過ごさせていることは、その穏やかな表情や笑顔で感じ取ることができます。全国に328棟のグループホームを擁する法人だけに、年間計画に基づいた取組やマニュアルの整備にも長けていて、総じて安心感に満ちています

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は、毎年作成し、朝礼やユニット会議において理念を確認し、実践に繋がるようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩を通して、地域の方々とお会いした際には、挨拶や会話をしている。ご入居者様の希望が聞かれた際、スーパーやコンビニにスタッフと一緒に買って買い物をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナウイルスの感染拡大してから、運営推進会議にて直接地域の方々と接する機会は減ってしまっていたが、近所の方が認知症の悩みや介護の方法について聞きに来ることがあった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナウイルスの感染拡大してから、運営推進会議の対面での開催が出来ていないが、徐々に緩和させ、対面での開催をしている。その際に、取組や状況を報告している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者と日頃から連絡をするようにしている。担当者への質問を積極的に行い、協力関係を築くようにしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議において、資料や動画を使用し、身体拘束についての研修を定期的の実施している。研修に加え、チェック表を用いて日々の行動をチェックしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	全体会議において、資料や動画を使用し、虐待の防止についての研修を定期的の実施している。研修に加え、チェック表を用いて日々の行動をチェックしている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間の研修スケジュールに準じて、スタッフの全体会議において、権利擁護について学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約又は改定等の際には、被契約者の不安や疑問を聞く時間を十分に取っており、理解や納得を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様アンケートを実施し、ご家族様の意見を伺うようにしている。意見においては、社内にて共有し、サービスが向上するようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員アンケートを実施し、意見や提案を聞いている。本社にて分析し、各ホームの課題を抽出し、改善に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度において、各スタッフ共通の評価ツールを使用し、評価をしている。定期的に面談も実施し、スタッフ各々の働きやすい環境を伺い、整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々のケアの力量をキャリアパス内のケアの技術評価表を用いて力量を把握、今後の課題において、管理者やユニットリーダーと共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に地域の同業者の事業所を訪問し、ホームでの取り組みやご利用者様の様子を伝えている。包括支援センター主催のイベントにも参加させてもらっている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者様が話しやすい環境づくりに努め、信頼関係が築けるように、時間をかけ、コミュニケーションを取っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居まで話をする機会を設け、不安や困っていることを聞き出すようにして、関りを増やし、信頼関係を築けるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にご本人様とご家族様にサービスに希望するニーズを聞き出し、ケアプランを作成している。ケアプラン作成時には、他のサービスの利用においても、柔軟に対応できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の暮らしの中において、出来る事を見出し、ホームの中においても、継続的に役割を持っていただけるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホーム側と信頼関係が築けるように、ご家族様の意見も大切に、入居してからの関係も崩れないようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に関りのあった人や環境を入居してから継続できるように、家族や知人の面会を受け入れ、馴染みの場所にも行けるように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士が生活の中において、孤立をしないように、関わり合いを持っている。職員は関係性全体を見て、必要なケアをするように努めている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了してからも、ホームを訪ねて来ていただいている方だいたり、必要に応じて相談や支援をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族様から入居前の情報を伺ったり、ご本人様との日々の関りの中から希望や意向を聞き出している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様にも協力を頂き、これまでどのようにして生活を送ってきたか、家庭環境や生活習慣を伺っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活を関りの中から情報として共有し、ノータイスに入力してスタッフ間で朝礼や会議で情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	主治医の回診や受診、月に1回のPTの訪問を受け、他職種とも連携をしながら、ご利用者一人一人が望む生活が送ることが出来るように、ケアプランにも反映するようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	アイフォンを使用し、記録の入力を行っている。 日々の様子をスタッフ間で共有し、介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様とご家族様のホームでの生活への希望を確認し、柔軟な支援をするようにしている。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ホームでは地域資源の発掘に努めている。ボランティアの受け入れも行っており、今後は車いすダンスの慰問も受ける予定です。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様やご家族様の希望を伺い、ホームの主治医に限らず、希望の医療を受けられるようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションより週1回の訪問を受け、日々の状態の把握に努め、情報を共有して日々のケアに努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院をした際には、介護サマリーを作成し、情報の共有をしている。スムーズに入院生活が送れるように、担当者とも密に連絡をするようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際にも重度化や終末期のことを伺うようにしているが、体調に変化があった際にも意向を伺うようにしている。事業所で出来ることを主治医や他職種にも確認している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対策マニュアルを作成し、職員には定期的に研修を開催している。すべての介護職員は救命講習を受講した。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施している。1回は夜間想定にて実施している。地域の方の参加がなく、課題であると認識している。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮し、人格も尊重した声掛けや対応をするように努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の関りから、ご利用者様の思いや希望を聞き出すようにして、叶えられるように、職員間で話し合いをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様一人一人の生活のペースを尊重し、どのようにホームで生活を送りたいか伺っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しくなるような会話や音楽を流すなど、雰囲気作りをしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が作成した食事メニューを厨房のスタッフが作った物を提供している。食事量が少ない方は、ご家族様にも協力をして頂き、補食を用意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を理解し、毎食後に口腔ケアをしている。毎週金曜日には訪問歯科を受け、全員ではないものの、必要に応じて診察している。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリやパットを使用しながらも、常にパットの種類については職員間で話し合いをしている。なるべくトイレでの排せつを目指している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量をアイフォンに入力し、各職員がタイムリーに情報を見られるようにしている。薬に頼らないように、運動やリハビリも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	安心して入浴ができるように、浴室内の環境整備をしている。浴槽に入れない方は、シャワーチェアを使用して入浴できるようにしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その人に合わせた生活習慣を把握し、眠れない時には、夜勤職員が付き添い、安心した生活が送れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬マニュアルに沿って服薬事故が起きないように、職員間で声を掛け合いながら服薬介助をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが出来ることを見つけて、継続して行えるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご希望に沿って、コンビニやスーパー、近隣の飲食店に出かけている。ご家族様との外出も定期的の実施している。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には貴重品の持ち込みはトラブル防止の観点からお断りをさせていただいている。しかし、ご本人様、ご家族様の希望が聞かれる際にはリスクも理解していただきながら現金を持っている方もいらっしゃる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様とご家族様ご理解の元、携帯電話を居室にて保管をされている方がおり、電話がかかってきた際には、居室にて電話をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	冬季は加湿器を各居室に配置し、温度計や湿度計を確認をして快適な空間での生活が送れるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お独りの時間も作れるように、廊下にソファを設置して、空間を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に家で使用していた家具や使い慣れた親しみのある物を持って来ていただけるように、依頼をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	スタッフが見守りを行う際には、背を向けないようにしている。		